

わたしたちの
あたまのなか



田名部 晃平



「国語の教科書の伝説の植物」

この時期になると沖縄育ちの元恋人から聞いた「ふきのとうは伝説の植物だと思っていて、北海道に住んだときドラゴンフルーツ並みに生えていて驚いた」という話を思い出します。

(どこを切ってもわからない)

元恋人というからには別れてしまったわけですが、声だとか言葉だとかウィルコムだとか残るものはあって、消えるわけじゃないというのが素敵であり困ったもんだなと思います。

エモみにあふれているのは春のせい。

なんとテーマは「ものの見方」です。

※リニューアルした工学分館ホームページで、
企画の過去ログが辿れるようになりました！

<http://www.library.tohoku.ac.jp/eng/englib/exhibbooks.html>



『ものづくり 2.0』	(工学分館 502.1/43)
『まなざしのデザイン』	(工学分館 518.8/686)
『ソーシャル・マジョリティ研究』	(工学分館 493.76/3)
『カーボン・アスリート:美しい義足に描く夢』	(本館 SC551/015)
『わかりあえないことから』	(本館 US1/0199/2177)
『新しい分かり方』	(本館 SB88/0179)
『そのたびごとにただ一つ、世界の終焉』	(本館 HD135/0267)
『日本人はなぜ「さようなら」と別れるのか』	(本館 US1/0207/764)